

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人 小林内科医院		
事業所名	グループホーム リラ (1階)(2階)		
所在地	〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江3丁目3番26号 093-382-1187		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果確定日	平成24年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現時点ではつつがなく運営することです。
開設から2年経過後に連絡協議会等外部、地域の力になれるよう目標立てております。
3年後に、施設整備の見直しまで運営が行き届くよう努力目標を立てております。
利用者様とともに、事業所を育ててまいります。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成24年11月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関門海峡と、納涼花火大会を見渡せる住宅地の中に、小規模多機能型居宅介護事業所を併設したグループホームリラがある。開設2年目に入ったばかりであるが、園芸好きな利用者と職員が手入れしている玄関前のプランターの花々や、中庭に植えられた季節の野菜や草花によって、暮らしの場としての温かさを感じる。運営推進会議を活用した地域との交流も少しずつ始まり、職員は、地域の清掃活動や祭りの手伝いに参加する等、事業所の周知に努めている。また、母体医療法人による医療連携体制は充実し、利用者、家族の大きな安心に繋がっている。利用者に穏やかに自分らしい暮らしを送ってもらう事を理念に掲げ、職員が一丸となって取り組み、利用者本位の介護サービスを目指して努力を重ねている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている	「穏やかに自分らしい生活を送って頂けるように我々は最大限努力致します」という理念を掲げ、利用者一人ひとりがあるままに暮らせるよう職員間で話し合い、利用者のニーズに合わせた介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	している	ホームの地域交流スペースを町内会やマンションの会合に開放したり、中学校吹奏楽部の演奏会を受け入れ、利用者が涙を流して喜ばれていた。また、町内会に加入し、地域の清掃活動や秋祭りの手伝いに参加する等、ホーム長、職員は事業所立ち上げの時から地域との関わりを常に意識して取り組み、交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活かしている	偶数月の第一金曜日に定期的に会議を開催し、利用者代表、家族代表、町内会会長、地域包括支援センター職員が参加している。ホームの活動、現状報告の後、参加委員から活発な意見や要望、情報提供があり、出された意見は検討して、ホーム運営に反映させる努力をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員が参加し、ホームの実情や取り組みを理解してもらっている。また、わからない事や困難事例等については行政窓口に出向き、相談や報告を行い、連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを用意し、勉強会を行い、身体拘束が利用者にとどのような影響を与えるか、職員間で話し合い、身体拘束をしないための介護の在り方について理解した上で、利用者が安全に安心して過ごせる介護サービスの取り組みを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活かしている	現在該当者はいないが、職員は勉強会の中で制度について学び、理解している。また、利用者や家族が制度を必要とする時、いつでも制度活用のための支援や橋渡しができる体制を確立している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	取り組んでいる		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	取り組んでいる	毎月、利用料金支払いに家族が来訪し、その都度職員が家族に利用者の近況報告をしながら、家族の要望や意見等を聴き取っている。出された意見は出来るだけ、ホーム運営に反映させる努力をしている。	利用者の日々の暮らしづくりや健康状態等を記録したホーム便りの定期的な発行や、同じ悩みを持つ家族同士が話合える家族会や家族交流会等の実施を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できていない	職員会議は、問題発生時や必要に応じて開催し、カンファレンスや勉強会も兼ねて有意義な会議となっている。職員の意見は活発に出され、出された意見は出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	足りない		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している	職員の採用は、年齢、性別の制限はなく、人柄や、やる気を重視している。休憩室や休憩時間を確保し、職員がリフレッシュして仕事ができる環境である。また、職員が特技を活かしながら生き生きと働ける職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	足りない	以前は、理念の唱和が、利用者の尊厳について話し合う良い機会となっていたが、朝礼を毎日実施するのが困難な事から現在は取り組めていないので、今後の課題として検討している。また、外部の人権研修の参加も検討している。	外部、内部で人権研修を受講し、利用者の人権を守るための介護サービスを検討し、理念についての勉強会や唱和等を行う事によって、人権教育啓発活動に繋げていく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	足りない		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	足りない		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	足りない	友人や知人、近所の方等の訪問があり、利用者と親しく歓談する場面がある。職員の配慮でお茶等提供し、いつでも訪問してもらえるよう声かけをしている。また、利用者の馴染みの場所や行きたい所等を聞きだしドライブしたり、家族と協力しながら馴染みの関係継続に向けて取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している	職員は、毎日の暮らしの中で利用者に寄り添いながら希望や要望を聞き取り、家族に相談して実現するための努力をしている。また、意向表出の困難な利用者に対しては、記録を見直し、家族に相談したりベテラン職員に尋ねるなどして、出来るだけ利用者の意向を把握する努力を重ねている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しているが足りない	介護計画は、利用者や家族の希望を聞きながら、ケアマネージャーが作成し、関係者と検討し、6ヶ月毎に見直しを図っている。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と密に連絡を取りながら、利用者が安心して暮らせる介護計画になるよう見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	足りない		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	利用者や家族の希望を聴きながら、かかりつけ医の受診支援をしている。母体医療法人の院長による毎週の往診や、ベテラン職員の的確な判断と迅速な行動で、24時間安心して医療受診出来る体制である。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	足りない		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	おこなっている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいるが、足りない	利用者の重度化が進む中、家族や主治医と常に話し合い、関係者全員で重度化に向けた方針を共有し、出来るだけ利用者や家族の意向を尊重し、安心した暮らしが送れるよう支援している。	利用者の、重度化や看取りの指針を作成し、ホームで出来る支援体制を明確に明示し、利用者や家族に説明し承諾を得て、利用者の重度化に向けた支援体制の確立を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	足りない		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	足りない	消防署の協力を得て防災訓練を実施し、ホーム独自の自衛消防組織による避難訓練も実施している。職員全員で防災マニュアルを作成し、利用者が安全に避難出来るよう災害時に備えている。	地域住民の協力を得て、夜間想定での避難訓練を実施し、2階部分の利用者の救出方法や協力者を確保し、電気、水道、ガス等、インフラ使用不可を想定し、非常用食料、飲料水、備品等の備蓄を期待したい。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	足りない	職員は利用者を人生の先輩として敬愛し、家族のような関係を目指し、日々努力している。また、個人情報の記録の保管や職員一人ひとりの守秘義務の遵守は、日頃より徹底を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているが、足りない		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している	食事は、利用者の一番の楽しみであり、調理担当者が厨房で作った料理を、利用者は美味しく食べる、職員は見守りと介助の支援を行なっている。また、利用者一人ひとりに応じた食事の形態について検討を行い、刻み方等工夫している。	利用者と職員が同じテーブルで、料理の味や色合い等を話題にしながら同じ料理と一緒に食べる等、楽しい食事風景になるような工夫と、利用者の好みに合わせた食事作りの検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しているが、足りない		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	努めているが、足りない		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おこなっている	職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握する努力をし、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。利用者の重度化が進み、日中も紙おむつ使用の利用者に対して、紙パンツへの変更を努力目標にする等、トイレでの自立に向けた排泄の支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	しているが、足りない	入浴は週3回であるが、利用者の希望や体調に合わせて、日時の変更や毎日利用する事も可能である。また、入浴嫌いな利用者には時間を置いたり、職員が交代で声かけする等、出来るだけ無理強いをしない入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	している		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できていない	利用者の残存能力に合わせ、中庭での日向ぼっこ、土いじりや、玄関周りのプランターの花の手入れ、近くのコンビニへの買い物、花見、ドライブ、家族の協力での外出等、出来るだけ外出の機会を作り、利用者が、四季の移り変わりを五感で感じてもらえるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	努めている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している	小規模多機能ホーム併設で広く明るくオープンな作りである。利用者が花の手入れをする中庭や、屋上からの関門海峡の眺め等、住宅地の中であるが環境に恵まれている。利用者が寛ぐリビングは家庭的で、利用者同士、又は職員と、会話やゲームをしながら過ごす、和やかな共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している	居室は、利用者の自宅で使用していた馴染みの物や、家具、大切な物等を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が落ち着いて穏やかに暮らせるよう工夫をしている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	しているが、足りない		